

令和 6 年 度

農業改良普及活動実績集

(第 5 4 号)



令和 7 年 3 月
北アルプス農業農村支援センター

表紙：「令和6年度北アルプス生食用ぶどうセミナー 特別講座」

北アルプス地域の生食用ぶどう生産者や今後栽培を計画している方を対象にセミナーを全6回開催した。写真は特別講座の様子で、受講生からの要望に応じて定植方法や定植1～3年目の管理、薬剤散布について実演を交えて講座を行った（参加者：セミナー受講生、JA大北、支援センター）。

令和6年5月29日 撮影

は じ め に

長野県「第4期長野県食と農業農村振興計画（以下「第4期食農計画」）」がスタートし、令和9年度までの5年間の県農政の指針となるこの計画において、北アルプス地域は、「北アルプス農業を支える担い手の確保・育成」や「マーケットニーズの高い園芸作物の産地づくり」など6つの取組を重点項目に掲げています。

北アルプス管内の基幹的農業従事者は、2010年から2020年までの10年間で44%も減少し、平均年齢は71.4歳と、農業者の減少と高齢化が加速しており、担い手の確保・育成は喫緊の課題です。

また、管内の農業生産については、きのこを除く農業産出額の6割を占めるのが水稻です。

令和6年産米は、作況指数は平年並（「101」（中信））だったものの、一等米比率は全国が75.9%、全県93.2%と高温や病害虫被害に苦しむ産地が多かった中、当管内は98.5%と県内有数の米産地として、農業者の技術力と関係機関の連携協力により高い品質が維持されています。

一方で、夏から秋にかけての高温や病害虫による品質低下・減収が全国的に大きな課題となっており、当地域でも影響が大きくなることが想定されます。

また、生産資材の高騰も続いていることから、今後、産地として維持・発展していくために収益性を高めるには主力の水稻と高収益作物の組み合わせが必要と考えています。

このような状況を踏まえ、北アルプス農業農村支援センターでは、第4期食農計画の達成を目指し、令和4年度から重点活動課題に設定した「水田農業における大規模白ネギ栽培技術の確立による産地育成」を強力に推進していくこととし、最終年（3年目）となった今年度は、栽培上の課題を解決するための技術検証や省力化機械の効果分析を行うなど、白ネギ導入と規模拡大に必要な様々な情報が整理できました。

この内容を協力いただいた大規模経営体はじめ、生産者、JA等の関係機関と共有し、白ネギの産地化を推進していくこととしました。

また、重点活動課題に併せて、17の一般活動課題に鋭意に取り組んだほか、大規模水稻経営体をターゲットとした「子実用とうもろこしの栽培適性」、「子実用とうもろこし後作大豆栽培の検証」、「土壌改良材投入によるワイン用ぶどうの土づくり効果」の3つの調査研究課題についても取り組んでまいりました。

さらに、令和5年に法制化され、令和6年度末までに市町村に策定が義務付けられた10年後を見据えた農地利用の姿を明確化する「地域計画」についても、積極的に市町村支援を展開してまいりました。

この「普及活動実績集」は、こうした当センターの一年間の活動をまとめたものです。

当初目標に達し技術定着等につながったもの、一定の成果が確認され継続した活動により更なる成果が期待できるもの、今後の展開の足掛かりを得るに留まったものなど、その成果水準は一様ではありませんが、普及指導活動の実状をご覧いただくことで、今後の地域振興の参考となれば幸いです。

最後に、当センターの活動に対しご協力いただきました農業者や関係機関・団体の皆様により感謝申し上げますとともに、北アルプス地域の農業・農村の発展に向け、今後とも一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月31日

北アルプス農業農村支援センター所長 中塚 満

令和6年度 普及活動の軌跡

水田農業における大規模白ネギ栽培技術の
確立による産地育成(3年目)



重点チームによる巡回（白馬村）



重点チームによる現地調査（池田町）



乗用管理機を用いた土寄せ（大町市）

地域を支える担い手の育成



長野県農村生活マイスターのつとめ（小谷村）



長野県農村生活マイスター アクションプラン推進事業
鹿肉ジャーキーづくり（大町市）



農村女性セミナー 西洋料理講座（大町市）



長野県農業経営者協会視察研修（大町市）



長野県農業士協会中信ブロック研修会（大町市）



A F C 白馬岩岳農産物販売会（白馬村）

競争力の高い水田農業の推進



リゾケア®XL コーティング種子
ドローン直播試験（大町市）



水稲適期収穫指導会（松川村）



雑草イネ対策研修会（池田町）



コンバイン作業安全研修会（大町市）



子実用とうもろこし後作大豆土壌断面調査（大町市）



大豆「すずみのり」栽培技術研修会（池田町）

マーケットニーズの高い 園芸作物の産地づくり



生食用ぶどうセミナー(松川村)



地域に根ざしたワイン用ぶどう研修会(池田町)



アスパラガス立茎講習会 (池田町)



ジュース用トマトほ場
ベッドマイスターの施工 (松川村)



フラワーアレンジメント教室 (大町市)



子実用とうもろこし検討会 (大町市)

北アルプス山麓ブランド等を 活用した地域振興



「桜仙峡あずき」生産ほ場巡回（池田町）



陸わさびの目揃会（松川村）



雪中キャベツのスーパーセル苗定植（小谷村）



雪中キャベツの収穫調査（小谷村）



クレソン簡易栽培試験（小谷村）

地産地消・暮らしの場



農作物のカラス対策講習会（松川村）



「長野式電気柵（中型獣対応）」展示モデル柵（大町市）



おむすびプロジェクト（白馬村）



地域食材活用学習会（小谷村）



（右）白馬村産ほおずきを使った料理

I 令和6年度の大北農業をふり返って

1 気象経過（令和6年）

(1) 月別気象経過の概要（下記内容について比較は平年との差異）

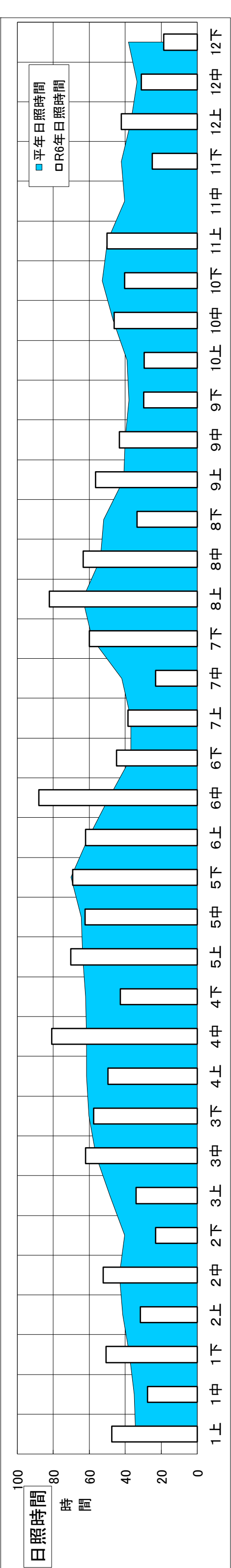
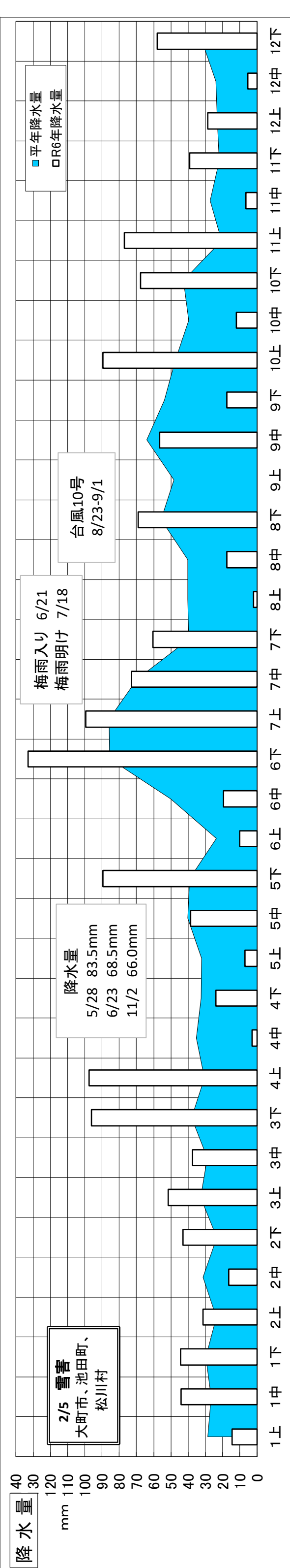
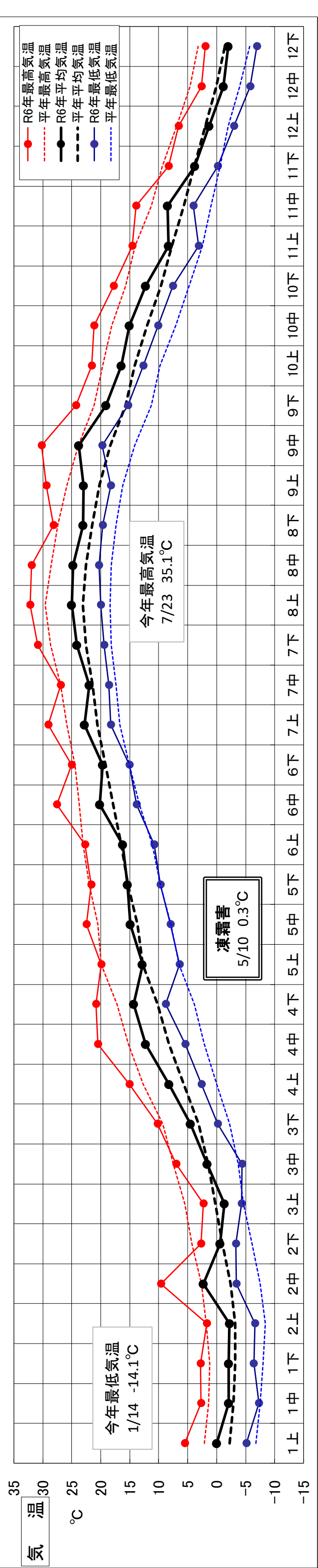
1月	冬型の気圧配置となることが多く、曇りや雪の降った日が多くなった。下旬では低気圧の影響を受け、14日には大町市の今年最低気温となる-14.1℃を観測した。
2月	上旬は低気圧が通過した影響で、5日から6日にかけて大雪となり、大町市以南で雪害が発生した。中旬は南から暖かい空気が流れ込んで気温が上昇し、3月下旬並みの暖かさとなった。下旬には平年並みの平均気温に戻った。
3月	低気圧や前線の影響を受けやすく、上中旬は雪となった日が多く、下旬は雨となった日が多かった。大町市で月降水量が185.0mmと、3月の観測史上最も多くなった。
4月	上旬は気圧の谷の影響で雨となった日が多かったが、中下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。月平均気温が大町市で11.6℃、白馬村で11.2℃とどちらの地点でも4月の観測史上最も高くなった。長野地方気象台では、同気象台構内のソメイヨシノの開花を8日に、満開を13日に観測した。開花及び満開は平年よりも3日早くなった。
5月	前線や低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化した。10日には大町市で最低気温が0.3℃を観測し、大町市や松川村の一部で凍霜害が発生した。また28日は大雨となり、日降水量が大町市で83.5mm、白馬村で88.0mmが観測された。
6月	上中旬は高気圧に覆われ、晴れた日が多くなった。下旬は低気圧や湿った空気の影響で雨の日が多くなり、23日には白馬村で日降水量106.0mmを観測した。関東甲信地方の梅雨入りは21日頃と発表され、平年より14日遅い梅雨入りとなった。
7月	上中旬は、梅雨前線や低気圧等の影響により、曇りや雨の日が多くなった。下旬は晴れた日が多く、真夏日になった日が多かった。28日には大町市で日最高気温が35.1℃と今年最高気温となり、さらに7月の観測史上最も高くなった。関東甲信地方の梅雨明けは18日頃と発表され、平年より1日早い梅雨明けとなった。
8月	上中旬は、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が続き、降水量は平年の半分以下となった。下旬は局所的に夕方に激しい雨が降った日が多くなった。暑い日が続いたため月平均気温が高くなり、大町市では月平均気温が24.3℃と統計開始以来2位の値を記録した。
9月	高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。月平均気温が大町市では22.0℃、白馬村では21.6℃となり、どちらも9月の観測史上最も高くなった。上旬は降水量が0mmであった。
10月	上旬・下旬は前線の影響で雨の日が多くなった。中旬は晴れた日が続いた。月平均気温は大町市では14.6℃、白馬村では14.4℃となり、どちらも10月の観測史上最も高くなった。
11月	数日の周期で天気が変わったが、西高東低の気圧配置や寒気が流入した影響で上中旬には雨、下旬には雪が降った。長野地方気象台では8日に初霜と初氷、また18日に初雪を観測した。
12月	上旬は高気圧に覆われ晴れの日が多くなったが、中下旬は冬型の気圧配置の影響で曇りや雪の日が多くなった。

(2) 気象災害等

雪害（大町市、池田町、松川村）：2/5の降雪により、パイプハウス11棟が全壊した。

凍霜害（大町市、松川村）：5/10の低温により、りんご、もも、ぶどうで凍霜害が発生した。

（岩下）



1 重点活動の経過と成果

重点活動課題：水田農業における大規模白ネギ栽培技術の確立による産地育成

■背景とねらい

北アルプス地域は農業生産額の50%を水稻が占める水田地帯で、近年担い手農業者への農地集積が進み、水稻経営体が大規模化している。水稻の経営環境は、生産資材費や人件費の高騰等に伴い厳しくなっており、園芸品目等を経営に取り入れるなど、所得の確保が課題となっている。

また、管内で進められている大規模区画ほ場整備事業の実施要件として、高収益作物の大面積導入も求められている。

そこで、機械化による省力栽培が可能で、近年生産意欲が高まりつつある「白ネギ」について、水田ほ場整備事業実施地域の意欲的な稲作経営体を対象者として、大規模栽培技術体系の確立と、水稻と白ネギの複合経営による収益力の向上を目的に活動した。

(重点活動の期間：令和4年度～6年度)

■本年度の取組

本年度は重点活動最終年として、これまで明らかになった課題の解決や対象経営体における白ネギ栽培の定着、規模拡大に向けて活動を展開した。

1 生産実証モデルほ場の設置と栽培管理指導

生産実証モデルほ場3カ所を継続して設置し、JA大北と連携して定期的な栽培指導を実施した。

特に、令和5年度までの課題であった排水対策（明きよの設置、定植位置の調整）や適期の除草・中耕・土寄せ作業の実施について情報提供と指導を行った。

2 収益性、労働力の分析

モデルほ場を管理する経営体の栽培日誌と作業記録、出荷記録を分析し、収益性や労働生産性の調査・検討を行った。

3 大規模栽培に向けた省力化機械の導入検討

大規模栽培に向けた省力化機械等の導入について、モデルほ場の調査結果に基づき情報提供を行った。

4 他の経営体に向けた白ネギ栽培の情報提供

これまでの重点活動により得られた情報を、既存の白ネギ栽培者や大規模水田経営体に情報提供を行った。

■本年度の成果

1 生産実証モデルほ場の設置と栽培管理指導

JA大北と連携した巡回指導、定期的な情報交換により生育状況や指導状況を共有した。

特に、定植前の排水対策の徹底（有機物施用、排水路の設置）、定植位置の調整（溝底への定植を避ける）、適期の土寄せ・追肥の実施について重点的に指導を行った。

本年度は6月下旬と7月上旬の降水量が多く、湿害の発生が心配されたが、明きよ等の排水対策の徹底により影響は少なかった。

また、9月～10月にかけて気温が高めで降雨が多く、病害の発生が多くなった。

除草・中耕・土寄せは適度な土壌水分条件での作業が求められるが、降雨が続くと作業が遅れてしまう。一部のモデルほ場では土壌が乾かないことで中耕が遅れ、不十分な雑草管理となってしまう。このことから、排水対策の重要性が再認識された。



生育状況の現地検討（池田町）

2 出荷量及び品質

令和5年度に課題となった排水対策と栽培管理が改善されたことから、本年度は降雨の多い期間があったものの、湿害の被害は少なかった。

しかし、9月～10月が高温多雨傾向であった影響により、病害の発生が見られたほか、収穫直前の生育が進み太物の比率が高くなった。

全体的に収量は増加傾向であったものの、罹病葉・曲がり・茎が柔らかいことなどによる品質低下から、B級比率も高まった(表1、2)。

表1. A法人の規格別出荷割合(%)

等級	3 L	2 L	L	M	B
R 4 年	4.3	36.3	31.2	0.9	27.3
R 5 年	26.6	49.8	5.5	0.0	18.0
R 6 年	1.3	49.5	21.9	0.5	26.8

表 2. A 法人の販売量 (kg/10a)

	R 4 年	R 5 年	R 6 年
出荷量	1, 589	2, 174	3, 111

3 労働力の分析と作業改善指導

(1) 調製機器の導入効果の検証

令和 4 年度に B 法人が導入した根切り機・皮むき機・葉切り機について、作業方法や人員配置の検討を行い、作業改善を進めた。

B 法人は集落営農組織が母体の法人であり、大勢の構成員による作業となるため、やや労働力が過剰になる傾向があったが、作業効率 は向上し、改善効果が確認できた (表 3)。

表 3. B 法人の収穫調製出荷作業時間

項 目	R 4	R 5	R 6
出荷量(箱)	472	1, 200	1, 504
調製出荷作業時間 (時間)	609	1, 105	1, 658
1 箱当たり作業時間 (時間/箱)	1. 29	0. 92	1. 10

4 大規模栽培に向けた省力化機械の導入検討

(1) 乗用管理機導入による作業改善の検討

令和 5 年度に C 法人に導入された、乗用管理機 (幅狭トラクター及び反転ロータリー・施肥機付き) について、他のモデル法人や白ネギ生産者、関係機関を対象に現地検討会を開催した。

実際の機械による土寄せ作業を見ながら、省力化・軽労化の効果を確認するとともに、導入上の留意点を検討した。

C 法人からは、畝幅を広めにとること (130～140cm)、機械が旋回するスペース確保をすること、土壌水分が高いと作業性が悪くなること等の留意点について説明があった。



乗用管理機現地検討会 (大町市)

参加者からの評価は高かったが、導入コストが歩行管理機に比べて高いことから、小規模栽培では導入しにくいなどの感想が聞かれ

た。

(2) 調製機器導入計画の支援

B 法人で令和 4 年度に導入し、効果を検証した調製機器について、調査結果等を A 法人に提供して導入計画を検討した。

その結果、栽培規模とのバランスから、徐々に規模を拡大し、それに合わせて機械導入を進めることとし、本年度は皮むき機が導入された (表 4)。

表 4. モデル法人の省力機械の導入実績

法人	機械・装置	導入時期
B 法人	根切り機・皮むき機・葉切り機	R 4 年 11 月
C 法人	幅狭トラクター＋アタッチメント	R 5 年 7 月
A 法人	皮むき機	R 6 年 10 月

(3) 重点課題の取組の情報提供

この重点活動の取り組みや得られた事項を白ネギ生産者に情報提供するとともに、市町村や J A 担当者と共に共有した。

特に、水田・ほ場整備後のほ場での排水対策の重要性や省力化機械の有効性、調製作業の労働力確保は、今後新規白ネギ生産者の確保や面積拡大を図る上で重要な事項となった。

■今後の課題と対応

3 年間のモデルほ場を利用した栽培により、各法人とも栽培技術が向上し、出荷量・品質が向上した。また、いずれの法人も栽培意欲が高く、次年度以降も面積拡大を図ることになった。

一方で、収益性向上のため、以下の課題解決と、他の稲作経営体での新規栽培や栽培拡大に向けた取り組みを一般活動として継続する。

(1) 生産・出荷上の課題と対応

- ・排水対策の徹底。
- ・天候や発生状況に応じた適期の病虫害防除の実施。
- ・調製機器の配置や動線の改善、適切な人員配置、省力的な荷造り・出荷形態等の検討。
- ・大規模稲作経営体向けの省力化機械を活用した白ネギ栽培モデルの作成。

(2) 地域の大規模稲作経営体への情報提供と作付け誘導

地域の大規模稲作経営体や白ネギ栽培希望者への情報提供と指導を行っていく。

(佐原)

Ⅳ 参考資料

1 管内農業生産の状況

(1) 農家の概況

市町村名	総農家数 (戸)	販売農家数 (戸)	基幹的農業従事者数 (人)			認定農業者数 (人)		
			合 計	男	女	総数	うち女性	うち法人
大町市	1,365	735	723	445	278	79	3	16
池田町	565	273	291	185	106	55	4	12
松川村	547	371	433	249	184	52	1	7
白馬村	438	167	158	98	60	39	3	7
小谷村	281	100	82	51	31	12	2	2
計	3,196	1,646	1,687	1,028	659	237	13	44

2020 年農林業センサスによる。

認定農業者数は北アルプス地域振興局調べで 2025 年 3 月末日現在。

(2) 耕地面積

市町村名	経営耕地 面積(ha)	田 (ha)	畑 (ha)		1 経営体 当たり 耕地面積(a)
			普通畑	樹園地	
大町市	1,857	1,556	271	30	244
池田町	772	700	50	22	270
松川村	989	909	41	39	448
白馬村	553	456	94	3	323
小谷村	115	97	18	0	103
計	4,286	3,718	474	94	

2020 年農林業センサスによる。

(3) 大北地域農業産出額の推移

(単位：億円)

年	農業産出額	米	果 樹	野 菜	花 き	畜 産	菌 茸	豆類 雑穀	その他
平成25年	96	48	4	7	3	8	24	0	2
平成26年	92	40	5	7	2	12	24	0	2
平成27年	90	42	5	6	3	11	22	0	1
平成28年	91	44	4	6	3	11	22	0	1
平成29年	92	46	4	5	2	11	21	1	1
平成30年	97	48	5	5	2	11	24	1	1
令和元年	101	50	5	6	2	10	25	1	1
令和2年	95	45	6	7	2	10	24	－	1
令和3年	88	42	5	7	2	10	20	－	1
令和4年	95	40	9	8	4	8	25	－	1

長野県(北アルプス地域振興局)推定値による。

注：ラウンドのため農業産出計と内訳は一致しない場合がある。

注：令和2年度以降、「豆類 雑穀」は、「その他」に含まれる。

2 管内農業の担い手の動き

(1) 新規就農者（49歳以下）

（令和7年3月31日現在）（人）

市町村名	新規学 卒就農		Uターン就農						新 規 参入者		合 計			
			29 歳 以下		30～ 49 歳		小 計							
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
大 町 市														
池 田 町					1		1		1		2			2
松 川 村					2		2		1	1	3	1		4
白 馬 村														
小 谷 村														
計					3		3		2	1	5	1		6

(2) 農業青年クラブ

（令和7年3月31日現在）（人）

団体名	25歳以下		26～30歳		31歳以上		合 計			PAL ネット (県協) ながの 会員数
	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
アルプスファーマーズクラブ (郡協)	1	0	3	1	27	1	31	2	33	2

(3) 農業士協会・農業経営者協会・農村生活マイスター協会への加入状況

（令和7年3月31日現在）（人）

市町村名 団体名	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	計
農業士協会北安曇支部	6 (県協6)	2 (県協2)	6 (県協6)	1 (県協1)	0	15 (県協15)
大北農業経営者協会	7 (県協4)	1	3 (県協2)	8 (県協4)	0	19 (県協10)
農村生活マイスター 協会北安曇支部	11	11	15	8	9	54